



## L コマンド

この章では、L で始まる Cisco Nexus Virtual Services Appliance コマンドについて説明します。

### line console

コンソール コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。コンソール コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**line console**

**no line console**

#### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

#### デフォルト

なし

#### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

#### サポートされるユーザーロール

ネットワーク管理者

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

#### 例

次に、コンソール コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# line console
n1010(config-console)#
```

# line vty

ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。ライン コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**line vty**

**no line vty**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、ライン コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# line vty
n1010(config-line)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>exit</b>	コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>line console</b>	コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。

# logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging console** [*severity-level*]

**no logging console**

## 構文の説明

*severity-level* ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。

重大度は次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用不可
1	アラート	即時処理が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラー状態
4	警告	警告状態
5	注意	正常だが注意を要する状態
6	情報	単なる情報メッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、コンソールセッションで重大度 4 (警告) 以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging console 4
n1010(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>logging event</b>	インターフェイス イベントをロギングします。
<b>logging level</b>	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging logfile</b>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
<b>logging module</b>	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
<b>logging server</b>	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
<b>logging timestamp</b>	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
<b>show logging logfile</b>	ログ ファイルの内容を表示します。

# logging event

インターフェイス イベントを記録するには、**logging event** コマンドを使用します。イベントのログをディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging event** {link-status | trunk-status} {enable | default}

**no logging event** {link-status | trunk-status} {enable | default}

構文の説明	
<b>link-status</b>	すべてのアップ/ダウンおよびステータス変更のメッセージをログします。
<b>trunk-status</b>	すべてのトランク ステータス メッセージをログします。
<b>default</b>	デフォルトのログ コンフィギュレーションが使用されます。
<b>enable</b>	インターフェイス ログがイネーブルになり、ポート レベルのログ コンフィギュレーションは無視されます。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザー ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、インターフェイス イベントをログに記録する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging event link-status default
n1010(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>logging console</b>	コンソール セッションへのメッセージのログをイネーブルにします。
	<b>logging level</b>	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのログをイネーブルにします。
	<b>logging logfile</b>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
	<b>logging module</b>	ログ ファイルへのモジュール メッセージのログを開始します。
	<b>logging server</b>	システム メッセージをログするためのリモート サーバを指定して設定します。
	<b>logging timestamp</b>	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
	<b>show logging logfile</b>	ログ ファイルの内容を表示します。

# logging level

定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのログギングをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。メッセージのログギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging level facility severity-level**

**no logging level facility severity-level**

## 構文の説明

<i>facility</i>	ファシリティの名前を指定します。
<i>severity-level</i>	ログギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がログギングされます。 重大度は次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用不可
1	アラート	即時処理が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラー状態
4	警告	警告状態
5	注意	正常だが注意を要する状態
6	情報	単なる情報メッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level all level\_number**

メッセージのロギングが可能なファシリティを一覧表示するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level ?**

**例**

次に、AAA ファシリティからのメッセージのうち重大度レベルが 0 ~ 2 のもののロギングをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging level aaa 2
n1010(config)#
```

次に、ライセンス ファシリティからの重大度が 0 ~ 4 のメッセージのロギングをイネーブルにし、ライセンス ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging level license 4
n1010(config)# show logging level license
Facility           Default Severity      Current Session Severity
-----
licmgr              6                      4

0(emergencies)     1(alerts)             2(critical)
3(errors)          4(warnings)           5(notifications)
6(information)     7(debugging)
```

n1010(config)#

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>logging console</b>	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging event</b>	インターフェイス イベントをロギングします。
<b>logging logfile</b>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
<b>logging module</b>	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
<b>logging server</b>	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
<b>logging timestamp</b>	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
<b>show logging logfile</b>	ログ ファイルの内容を表示します。

# logging logfile

システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging logfile** *logfile-name severity-level [size bytes]*

**no logging logfile** [*logfile-name severity-level [size bytes]*]

## 構文の説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージを保存するログ ファイルの名前を指定します。																											
<i>severity-level</i>	ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。  重大度は次のとおりです。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>名称</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>緊急</td> <td>システムが使用不可</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アラート</td> <td>即時処理が必要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>クリティカル</td> <td>クリティカルな状態：デフォルト レベル</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エラー</td> <td>エラー状態</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>警告</td> <td>警告状態</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>注意</td> <td>正常だが注意を要する状態</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報</td> <td>単なる情報メッセージ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>デバッグ</td> <td>デバッグ中にだけ表示される状態</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	名称	定義	0	緊急	システムが使用不可	1	アラート	即時処理が必要	2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル	3	エラー	エラー状態	4	警告	警告状態	5	注意	正常だが注意を要する状態	6	情報	単なる情報メッセージ	7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態
レベル	名称	定義																										
0	緊急	システムが使用不可																										
1	アラート	即時処理が必要																										
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル																										
3	エラー	エラー状態																										
4	警告	警告状態																										
5	注意	正常だが注意を要する状態																										
6	情報	単なる情報メッセージ																										
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態																										
<i>size bytes</i>	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で、4096 ~ 10485760 の範囲で指定します。デフォルトのファイルサイズは 10485760 バイトです。																											



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、LogFile という名前のログ ファイルを設定してシステム メッセージを保存し、その重大度レベルを 4 に設定する例を示します。



```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging logfile LogFile 4
n1010(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>logging console</b>	コンソールセッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging event</b>	インターフェイス イベントをロギングします。
<b>logging level</b>	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging module</b>	ログファイルへのモジュールメッセージのロギングを開始します。
<b>logging server</b>	システムメッセージをロギングするためのリモートサーバを指定して設定します。
<b>logging timestamp</b>	システムメッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
<b>show logging logfile</b>	ログファイルの内容を表示します。

# logging module

ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始するには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging module** [*severity-level*]

**no logging module** [*severity-level*]

## 構文の説明

*severity-level* ログイングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルが指定されていない場合は、デフォルトが使用されます。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。重大度は次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムが使用不可
1	アラート	即時処理が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラー状態
4	警告	警告状態
5	注意	正常だが注意を要する状態 (デフォルト)
6	情報	単なる情報メッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

## デフォルト

ディセーブル

モジュール メッセージのロギングを開始する場合に、重大度を指定しないと、デフォルトの「注意」(5) が使用されます。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、デフォルトの重大度レベル (重大度 4) でモジュール メッセージのログ ファイルへのロギングを開始する例を示します。

```
n1010# configure terminal
```

```
n1010(config)# logging module
n1010(config)#
```

次に、モジュール メッセージのログファイルへのロギングを停止する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# no logging module
n1010#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>logging console</b>	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging event</b>	インターフェイス イベントをロギングします。
<b>logging level</b>	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging logfile</b>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
<b>logging server</b>	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
<b>logging timestamp</b>	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
<b>show logging logfile</b>	ログ ファイルの内容を表示します。

# logging server

システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定するには、**logging server** コマンドを使用します。設定を削除または変更するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server hostname [indicator [use-vrf name [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp
| kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news |
syslog | user | uucp}]]]
```

```
no logging server hostname [indicator [use-vrf name [facility {auth | authpriv | cron | daemon |
ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news |
syslog | user | uucp}]]]
```

## 構文の説明

<i>hostname</i>	リモート Syslog サーバのホスト名/IPv4/IPv6 アドレスです。
<i>indicator</i>	(任意) 0 : 緊急、1 : アラート、2 : クリティカル、3 : エラー、4 : 警告、5 : 注意、6 : 情報、7 : デバッグ
<b>use-vrf name</b>	(任意) VRF 名を指定します。デフォルトは <b>management</b> です。
<b>facility</b>	(任意) このサーバへの転送時に使用するファシリティを指定します。
<b>auth</b>	<b>auth</b> ファシリティを指定します。
<b>authpriv</b>	<b>authpriv</b> ファシリティを指定します。
<b>cron</b>	<b>Cron/at</b> ファシリティを指定します。
<b>daemon</b>	<b>デーモン</b> ファシリティを指定します。
<b>ftp</b>	<b>ファイル転送システム</b> ファシリティを指定します。
<b>kernel</b>	<b>カーネル</b> ファシリティを指定します。
<b>local0</b>	<b>local0</b> ファシリティを指定します。
<b>local1</b>	<b>local1</b> ファシリティを指定します。
<b>local2</b>	<b>local2</b> ファシリティを指定します。
<b>local3</b>	<b>local3</b> ファシリティを指定します。
<b>local4</b>	<b>local4</b> ファシリティを指定します。
<b>local5</b>	<b>local5</b> ファシリティを指定します。
<b>local6</b>	<b>local6</b> ファシリティを指定します。
<b>local7</b>	<b>local7</b> ファシリティを指定します。
<b>lpr</b>	<b>lpr</b> ファシリティを指定します。
<b>mail</b>	<b>メール</b> ファシリティを指定します。
<b>news</b>	<b>USENET ニュース</b> ファシリティを指定します。
<b>syslog</b>	<b>Syslog</b> ファシリティを指定します。
<b>user</b>	<b>ユーザ</b> ファシリティを指定します。
<b>uucp</b>	<b>UNIX-to-UNIX コピー システム</b> ファシリティを指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定した IPv4 アドレスのリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging server 172.28.254.253
n1010(config)#
```

次に、重大度レベル 5 以上の指定したホスト名のリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging server syslogA 5
n1010(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>logging console</b>	コンソール セッションへのメッセージのログギングをイネーブルにします。
<b>logging event</b>	インターフェイス イベントをログギングします。
<b>logging level</b>	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのログギングをイネーブルにします。
<b>logging logfile</b>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
<b>logging module</b>	ログ ファイルへのモジュール メッセージのログギングを開始します。
<b>logging timestamp</b>	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。
<b>show logging logfile</b>	ログ ファイルの内容を表示します。

# logging timestamp

システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。デフォルトの単位に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging timestamp** {microseconds | milliseconds | seconds}

**no logging timestamp** {microseconds | milliseconds | seconds}

## 構文の説明

<b>microseconds</b>	タイムスタンプはマイクロ秒単位です。
<b>milliseconds</b>	タイムスタンプはミリ秒単位です。
<b>seconds</b>	タイムスタンプは秒単位です (デフォルト)。

## デフォルト

Seconds

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、システム メッセージのタイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# logging timestamp microseconds
n1010(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>logging console</b>	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging event</b>	インターフェイス イベントをロギングします。
<b>logging level</b>	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
<b>logging logfile</b>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
<b>logging module</b>	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
<b>logging server</b>	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
<b>show logging logfile</b>	ログ ファイルの内容を表示します。

# login virtual-service-blade

Virtual Service Blade (VSB) にログインするには、**login virtual-service-blade** コマンドを使用します。

**login virtual-service-blade** *name* [**primary** | **secondary**]

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>name</i>	既存の仮想サービス ブレードの名前を指定します。
	<b>primary</b>	(任意) プライマリ ロールを割り当てられている Cisco Nexus 1010。
	<b>secondary</b>	(任意) セカンダリ ロールを割り当てられている Cisco Nexus 1010。

デフォルト なし

コマンド モード EXEC

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.2(1)SP1(2)	オプションの <b>primary</b> および <b>secondary</b> キーワードが追加されました。
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、仮想サービス ブレードへのシリアル コマンド アクセスを可能にします。

例 次に、プライマリ Cisco Nexus 1010 上にある VSB-1 という名前の VSB の Cisco Nexus 1000V CLI にログインする例を示します。

```
n1010# login virtual-service-blade VSB-1 primary
n1010#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>description</b>	仮想サービスに説明を追加します。
	<b>enable</b>	仮想サービスのコンフィギュレーションを開始してイネーブルにします。
	<b>show virtual-service-blade</b>	仮想サービス ブレードに関する情報を表示します。
	<b>show virtual-service-blade name</b>	仮想サービスに関する情報を表示します。
	<b>show virtual-service-blade-type summary</b>	すべての仮想サービスの設定の要約をタイプ名ごとに表示します。

コマンド	説明
<b>virtual-service-blade</b>	指定した仮想サービスを作成して、そのサービスのコンフィギュレーションモードに切り替えます。
<b>virtual-service-blade-type</b>	この仮想サービスに追加するソフトウェア イメージ ファイルのタイプと名前を指定します。